

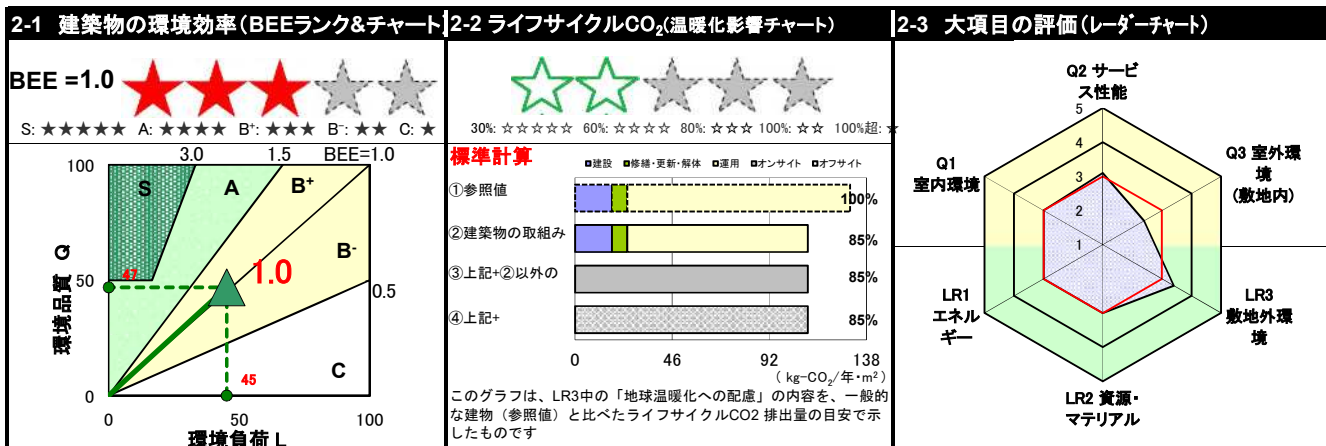
川崎市建築物環境配慮制度受付番号 22033

建築物名称	(仮称)ヤオコー川崎枳形店新築工事
建築主	株式会社ヤオコー 代表取締役 川野 澄人
建築物の所在地	川崎市多摩区枳形一丁目1192-1ほか16筆の一部
設計者氏名、建築士事務所名	内海 幸夫 株式会社九段建築研究所 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	9,978.48㎡
用途	物品販売業を営む店舗、自動車車庫、サービス(クリーニング取次店)、診療所(患者の収容施設のないものに限る)、損害保険代理店
構造	鉄骨造
階数	地上3階
工事完了年月	令和6年2月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

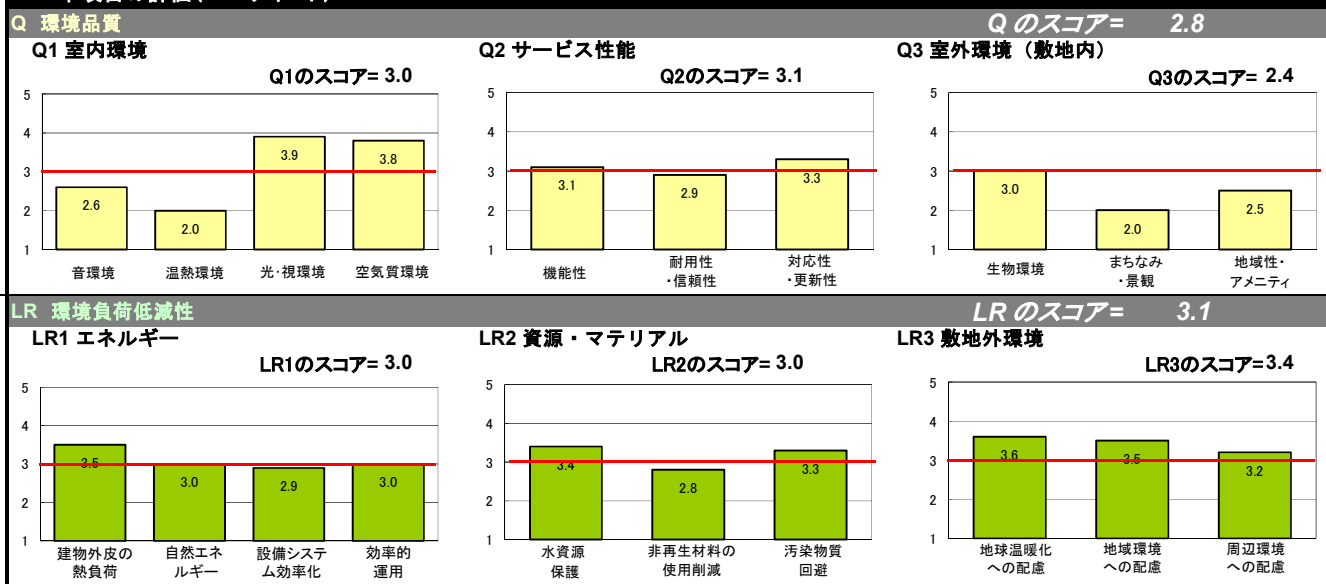
評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ヤオコー川崎枳形店 新築工事	階数	地上3F
建設地	川崎市多摩区枳形一丁目1192-1ほか16筆の一部	構造	S造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、準住居地域、準防火地域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,850 時間/年(想定値)
建物用途	物販店、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年2月 竣工	評価の実施日	2022年10月11日
敷地面積	5,422 m ²	作成者	株式会社九段建築研究所 大浦 健二
建築面積	3,618 m ²	確認日	2022年10月11日
延床面積	9,978 m ²	確認者	株式会社九段建築研究所 内海 幸夫

外観パース等

パースの公表を希望される場合は
図を貼り付けてください

2-4 中項目の評価 (バーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要			実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目		各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)			Gの平均点	2.8
Q-3	■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		2.2/4.3	2.5
LR-3	■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)			Wの平均点	3.0
Q-1	■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御		0.5/0.8	3.0
Q-3	■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		1.4/2.3	3.0
LR-1	■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。	3.1/5.0	3.1
LR-2	■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	・主要水栓は節水器具とし、節水便器を使用する等水資源の保護に配慮している。	2.9/4.7	3.0
LR-3	■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)			Rの平均点	3.0
Q-2	■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.3/0.5	3.0
LR-2	■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	・躯体に高強度材料を採用することにより、非再生性資源の使用量削減に配慮している。	2.4/4.0	3.0
LR-3	■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	・駐輪場及び駐車場を確保し、周辺の渋滞緩和に資する出入口計画がある。	0.3/0.4	3.6
ヒートアイランド現象の緩和(H)			Hの平均点	3.0
Q-3	■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		1.4/2.3	3.0
LR-1	■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	・断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用している。	3.1/5.0	3.1
LR-3	■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.0**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要			実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目		各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階				
Q-2	■ サービス性能対策			
2	2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階				
LR-2	■ 資源・マテリアル対策			
2	2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.8/1.3	3.0
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー				
LR-1	■ エネルギー対策			
1	建物外皮の熱負荷抑制	・高効率な設備機器の採用によりCO2の削減に配慮している。	3.1/5.0	3.1
2	自然エネルギーの利用			
3	設備システムの高効率化			
4	効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										2.8
Q1 室内環境							0.37		-	3.0
1 音環境						2.6	0.15		-	2.6
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40		-	
1.2 遮音						3.0	0.40		-	
1 開口部遮音性能						3.0	1.00		-	
2 界壁遮音性能						-	-		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-		-	
1.3 吸音						1.0	0.20		-	
2 温熱環境						2.0	0.35		-	2.0
2.1 室温制御						3.0	0.50		-	
1 室温						3.0	0.46		-	
2 外皮性能		W				3.0	0.19		-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.35		-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20		-	
2.3 空調方式						1.0	0.30		-	
3 光・視環境						3.9	0.25		-	3.9
3.1 昼光利用						3.0	0.51		-	
1 昼光率						-	-		-	
2 方位別開口						-	-		-	
3 昼光利用設備		W				3.0	1.00		-	
3.2 グレア対策						-	-		-	
1 昼光制御		W				-	-		-	
3.3 照度						-	-		-	
3.4 照明制御					1作業単位以下で制御、端末スイッチで調整可能	5.0	0.49		-	
4 空気質環境						3.8	0.25		-	3.8
4.1 発生源対策						4.0	0.50		-	
1 化学汚染物質					ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を使用している	4.0	1.00		-	
4.2 換気						4.0	0.30		-	
1 換気量						3.0	0.50		-	
2 自然換気性能						-	-		-	
3 取り入れ外気への配慮					空気取り入れ口は汚染源のない方位に設けられていて、かつ各種排気口と6m以上離れて設置されている	5.0	0.50		-	
4.3 運用管理						3.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御						3.0	0.50		-	

Q2 サービス性能					—	0.30	-	-	3.1
1 機能性					3.1	0.40	-	-	3.1
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	-	-	3.1
1	広さ・収納性				-	-	-	-	
2	高度情報通信設備対応				-	-	-	-	
3	バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性					3.0	0.30	-	-	
1	広さ感・景観				4.0	0.33	-	-	
2	リフレッシュスペース				2.0	0.33	-	-	
3	内装計画				3.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理					3.5	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計				4.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性					2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50	-	-	2.9
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.0	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数		R		3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R		2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R		3.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R		3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R		4.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔		R		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性					2.6	0.20	-	-	3.3
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.3	0.30	-	-	
3.1 空間のゆとり					4.1	0.30	-	-	
1	階高のゆとり				4.7	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ				3.4	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性					3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					—	0.33	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出					G	W		H	3.0
2 まちなみ・景観への配慮					G				2.0
3 地域性・アメニティへの配慮									2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上									2.0
3.2 敷地内温熱環境の向上					G	W		H	3.0

LR 建築物の環境負荷低減性							-		-	3.1
LR1 エネルギー							—	0.40	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		W		H	断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用	3.5	0.20	-	-	3.5
2 自然エネルギー利用		W		H		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		W		H	[BEQ][BEIm] = 0.81	2.9	0.50	-	-	2.9
4 効率的運用						3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価						3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		W		H		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		W		H		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価						-	-	-	-	
4.1 モニタリング		W		H		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制		W		H		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル							—	0.30	-	3.0
1 水資源保護		W	R			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水					自動水栓に加えて節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用						3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無						3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無						3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減						2.8	0.60	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減		W	R		ハイベースNEO工法、QLデッキ等を採用している	4.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		W	R			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W	R		—	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W	R		—	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		W	R			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W	R		躯体と仕上材の分離が容易である	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避						3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用						3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避						3.5	0.70	-	-	
1 消火剤		W				-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		W			GWP値の低い断熱材の採用	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒		W				3.0	0.50	-	-	
LR3 数地外環境							—	0.30	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		W			高効率な設備機器の採用によるCO2の削減	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮						3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止					燃焼機器の設置は無い	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	G	W		H		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制						3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			R			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			R			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			R		駐輪・駐車台数を確保し車両出入時の混雑を避けた計画	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			R			2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮						3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						3.0	0.40	-	-	
1 騒音						3.0	1.00	-	-	
2 振動						-	-	-	-	
3 悪臭						-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制						3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制						3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制						-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制						3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制						4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策					周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画	5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30	-	-	